

## Significance of aldosterone gradient within left adrenal vein in diagnosing unilateral subtype of primary aldosteronism

緒方, 大聖

<https://hdl.handle.net/2324/4474976>

---

出版情報 : Kyushu University, 2020, 博士 (医学), 課程博士

バージョン :

権利関係 : Public access to the fulltext file is restricted for unavoidable reason (2)

(別紙様式2)

氏名	緒方 大聖			
論文名	Significance of aldosterone gradient within left adrenal vein in diagnosing unilateral subtype of primary aldosteronism			
論文調査委員	主査	九州大学	教授	石神 康生
	副査	九州大学	教授	鴨打 正浩
	副査	九州大学	教授	山浦 健

### 論文審査の結果の要旨

副腎静脈サンプリングにおける左副腎静脈内アルドステロン濃度勾配が左の片側性アルドステロン過剰分泌を示唆するかを検討した臨床研究である。申請者らは、副腎静脈サンプリングデータのある原発性アルドステロン症123例を調査し、左副腎静脈の共通幹と副腎中心静脈のアルドステロン/コルチゾール比 $>4:1$ の場合をアルドステロン濃度に有意な濃度勾配ありと判定した。濃度勾配の有無が左副腎からの片側性アルドステロン症診断に有用かをretrospectiveに検討した。左副腎静脈の共通幹と副腎中心静脈との間にアルドステロン/コルチゾール比の有意な濃度勾配を認めた症例は認めなかった症例よりも左片側性サブタイプの頻度が有意に高かった(15/17 vs. 23/106)。低K血症と左副腎腫瘍の少なくとも1方を有する60例で、有意な左副腎静脈内アルドステロン濃度勾配は左片側性サブタイプ症例にしか認められず(15/35)、両側性サブタイプ症例には認めなかった(0/25)。これらの結果は外部コホートでも立証された。低K血症と左副腎腫瘍の少なくとも一方を有する症例において、左副腎静脈内アルドステロン濃度勾配は左片側性サブタイプの診断に用いることができると考えられた。

以上の結果はこの方面の研究に知見を加えた意義あるものと考えられる。本論文についての試験では、論文の研究目的、方法、結果などについて説明を求め、各調査委員より専門的な観点から論文内容およびこれに関連した事項について質問を行ったがおおむね満足すべき回答を得た。なお、本論文は共著者が10名を超えるが申請者が主導的に研究を遂行したことを確認した。

よって調査委員会合議の結果、試験は合格と判定した。